

F-REDD Newsletter

Sustainable Forest Management and REDD+ Support Project

Nov 2015 - Oct 2020

持続可能な森林管理及びREDD+支援プロジェクト(F-REDD)

本プロジェクトの目的はREDD+に係る戦略策定、実施体制構築、実施のコーディネーションの支援と森林資源情報の整備などに係る能力の強化をはかり、それによってラオスの持続的な森林管理の促進に寄与することです。天然資源環境省森林資源管理局(MONRE-DFRM)と農林省森林局(MAF-DOF)を実施機関として協力しています。

REL/MRV 技術作業部会 第1回会合

ラオスではREDD+を推進するために6つの技術作業部会が設置されています(前号紹介)。その一つであるREL/MRV技術作業部会の第1回会合が4月27日に開催され、DFRM、DOF、MONRE災害対策気候変動局といった主要な部局及びその他開発パートナーを交えた総勢30名が参加しました。この作業部会はF-REDDの主なC/P機関の一つであるDOF森林調査計画課(FIPD)のリントン課長が部会長を務め、F-REDDが実質的なリード・ドナーとして企画・運営を支援しています。

今回は第1回会合として2020年に向けたワークプランを議論したほか、F-REDD専門家がREDD+の概要、REL、MRV、NFMSといった本技術作業部会の主要事項について、基礎的な内容にラオスのケースを交えて紹介・意見交換をしました。部会の役割とこれからの取り組み予定について、メンバーの共通理解を深める良いスタートが切れたと思います。



F-REDD専門家によるRELの説明

NFI 2015-2016 完了

4県を対象とした今乾季(2015～2016)の国家森林インベントリが終了しました。調査中、DOF-FIPDのリントン課長及びDFRM保護林・保全林調査課のソンヴァン課長による視察が行われ、調査の進行状況と問題の洗い出しが行われました。この視察及び今季の調査結果をとりまとめ、問題から分析された反省点や改善点を反映させた次期乾季の調査計画を現在作成中です。

国家森林インベントリ調査は来乾季で終了し、その情報がRELや将来のMRVに必要な森林炭素量変化推定の基礎データとなります。情報を正確に取得できるように調査実施体制を改善・強化していきます。



DOF及びDFRMの課長による視察

“REDD+ Financing” ワークショップ参加

REDD+による森林保全を資金面から如何に後押しするかは、国際交渉の場でも中心的な議題です。このたびUN-REDD、FCPF及びREDD+ Partnershipの共催による、“REDD+ Financing”に関するワークショップが5月25日から27日にかけてバンコクで開催されました。多くの途上国がREDD+準備の段階から実施及び結果に基づく支払いの段階へ移行するにあたり、それらの資金源やアクセス方法に関する知識の共有と、今後への期待や課題を議論することを目的としたワークショップです。ラオスからはDOF、DFRM、財務省職員と共にF-REDDからも専門家が参加しました。

ワークショップでは他のアジア諸国12カ国の他、国際機関や民間金融機関からも参加者を迎え、REDD+資金の動向や民間セクターの見方、そして他国事例などを元にしなが、関係者の能力向上、森林保全活動や環境負荷の低い農林業システムへの転換、そして公正かつ透明性のある資金メカニズムの構築のためにはどのような制度が有効かといった議論がなされました。これからREDD+戦略作りが開始するラオスにとって、資金面から将来を見据える良いきっかけとなりました。



WSで発言するDOF職員

本邦研修：REL・NFMS研修

F-REDDではラオス現地での研修やOJTの他にも、日本の事例等から学ぶための本邦研修を実施することになっています。その第1回目として6月13日から24日にかけて本邦研修を実施し、DFRM及びDOFからREDD+を推進する上でキーパーソンとなるリントン課長など職員4名が、特にREL及びNFMSの理解を深めるために訪日しました。

例えばREDD+実施の結果を測る際のベンチマークであるRELや、実際の結果を測定などするMRVは、国の温室効果ガスインベントリとの整合性が求められます。REDD+担当者としてはそのような課題を予め整理しておくが重要であることから、研修ではRELの概要と温室効果ガスインベントリの概要から始まり、実際に模擬REL設定の演習も行うなど、具体的な理解が得られるように工夫しました。

また、林野庁では日本の温室効果ガスインベントリにおける森林炭素データの作成方法、REL提出後の技術審査、温室効果ガス排出削減の手段として日本政府が実施しているJCM（Joint Crediting Mechanism）のREDD+プロジェクトに関するガイドラインについて講義を受けました。

さらに、二酸化炭素の吸収源ともなる森林管理の好例として、日本三大人工美林の一つである天竜で幾代にも渡り適切に管理されている中山林業合資会社の山林を見学させていただきました。ラオスの森林はほとんどが天然林ですが、それらの持続的経営は重要課題の一つとされていることから、GISを用いた施業方法や流通・販売についても質疑を交え、研修員は熱心に説明を聞いていました。見学した山林は森林認証制度（FSC）に登録されていることもあり、研修員にとって非常に興味深いモデルであったことが伺えました。

今後、研修員がこの研修で学んだことを活かしてラオスにおけるREDD+の推進と森林管理の向上に貢献することが期待されます。



模擬RELの設定



天竜人工林見学の様子

成果毎の主な活動

成果1：中央政府の森林セクター支援

- ◆本邦研修（REL・NFMS研修）

成果2：REDD+実施による排出削減・吸収増加量の測定支援

- ◆2015年森林区分図作成のための、2010～2015年間の衛星画像による変化抽出作業
- ◆第2回NFI 2015 - 2016 乾季における調査完了

成果3：国レベルのREDD+支援

- ◆第1回REL/MRV技術作業部会会合開催
- ◆Regional Knowledge Exchange: “REDD+ Financing”への参加

成果4：ルアンプラバン県のREDD+準備支援

- ◆県REDD+タスクフォース（PRTF）及びREDD+オフィスの開設承認
- ◆県REDD+戦略策定に必要な森林減少要因調査の取りまとめ及び県森林セクター5カ年計画や統計資料の情報収集・分析

コンタクト

プロジェクトオフィス

Kouvieng Street,
Sisaket Village,
Chanthabouli District,
Vientiane Capital, Laos
Tel & Fax: 021(22)2536

次期四半期のイベント

Jul
国家REDD+タスクフォース向け合同
研修

Aug
第12回森林サブセクター作業部会会合
ルアンプラバン県REDD+タスク
フォース会合、技術会合

Sep
第2回REL/MRV技術作業部会会合



天然資源環境省
Ministry of Natural Resources
and Environment (MONRE)



農林省
Ministry of Agriculture and
Forestry (MAF)



独立行政法人
国際協力機構